

市民活動・虎の巻

研究テーマ 『地域のニーズから市民活動を生む方法』

地域のためになる活動をしようにしても、何が地域から求められているのか、つまり「地域のニーズ」を把握することは簡単ではありません。今回例に挙げた、地域に寄り添った活動をしている3団体の背景には、それぞれに特徴ある地域ニーズの把握とそれをアクションにつなげるプロセスが見受けられました。みなさんの地域でもぜひ参考にして、地域に求められる活動に取り組みましょう!

チーム作り先行型

未来の石坂を語る会

東山の裾野に沿った5町内から成る石坂小学校区は、豊かな自然や歴史文化を持つ一方で継続的な児童減少に悩まされていた。町内会役員やPTAを始めとした、そんな状況に同じく危機感を抱いた地域住民有志が、地域の活性化を目指して話し合うために団体を設立。

話し合いの結果として、地域全体で盛り上がるお祭りをやろう!と「石坂郷フェスティバル実行委員会」が派生し、2018年9月8日に第1回石坂郷フェスティバルが開催された。



ひとりの熱意をみんなで応援型

宮本の夢を語る会

「明日の郷土を語る会」が、地域づくりの夢を語り合うことで地域の活性化や結束を図るため、1996年から開催している「宮本の夢を語る会」。地域住民のほか地元企業や学校、公共施設関係者も出席。選抜者が発表した夢に対し、出席者それぞれが語り合う。

2017年の発表者が語った「地域活性化のためにマラソン大会をやりたい!」という夢に応援やアイデアが集まり、2017年から続く「ながおか縄文の丘マラソン」につながった。



地域リサーチ先行型

山本地域活性化プロジェクト

山本コミュニティセンターのまちづくり部会が、地域づくりの第一歩として地域の課題や資源の情報整理のため、住民ワークショップを実施。その後、民間企業や協働センターの協力を受けてアクションを起こすための「山本地域活性化プロジェクト」を設立。

プロジェクト内で部会に分け、空き地でコミュニティファームを行うチーム、山道にハイキングコースを整備するチームなど計4チームが設立され、各チームごとに活動を進めている。



we can do it!

私たちは

〇〇ができます!

長岡には様々なノウハウやスキルをもつ市民団体がたくさん! 困りごと、協力してほしいことはありませんか? 私たちが力になりますよ!

「ながおか医療生協 フィットネスレインボー」は、健康のための講座開催ができます!

元気な方から支援が必要な方までいきいきと暮らせる地域を目指して、出張健康チェックや筋肉測定、関節痛・慢性痛の予防体操講座のほか各種健康講座など、健康づくりや介護予防を広める活動をしています。



協力してほしいこと サポートスタッフとして協力して頂ける方を募集中。

活用しよう! 協働マッチングリスト

市民活動団体の「協力できること」「協力してほしいこと」をまとめたリストです。リストを開けば、助けになる団体、または力になれる団体がきっと見つかります!



information

センターからのお知らせ

9月7日(土) 10:00-15:00

私たちがつくる「まちの文化祭」

ながおか市民活動フェスタ'19

会場/アオーレ長岡全館(入場無料)



長岡の市民活動団体が大集合する「まちの文化祭」。今年の参加団体は70以上! 活力あふれる手づくりの活動で、暮らしを楽しく・豊かにする出会いがきっとあります! 毎年5,000人が足を運ぶ市民活動の祭典にぜひお越しください。

協働センター Q&A

Q. 住民ワークショップの実施に協力してもらえますか?
A. 地域の意見を集約するにあたってワークショップを検討されている際は、協働センターで協力もしくは、しかるべき団体・機関を紹介いたしますのでご相談ください。

Q. 地域のお祭り・イベントに出演してくれる人を紹介してほしい
A. パフォーマンスや演奏をする演者や、司会者などを紹介できます。協働センターやHPで閲覧できる『協働マッチングリスト』もご活用ください

らこらま

Racotte vol.80
発行●ながおか市民協働センター

2019
8
FREE

インタビュー interview

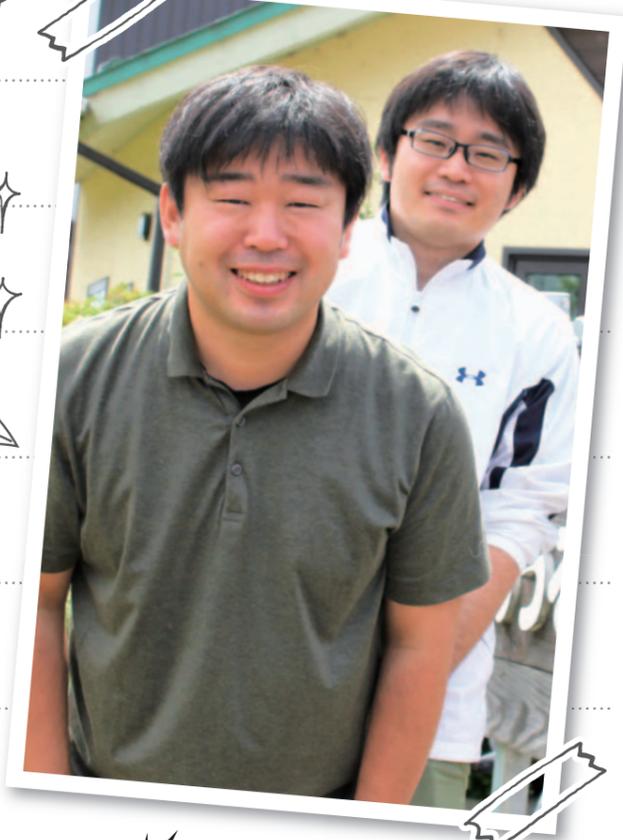
日常の“ワクワク”を大事に生きるコーチャー

渡辺尚子さん



子どもたちが安心して学べる環境づくりに汗流す若き兄弟

山田竹紘さん 古口紘基さん



- 活動PickUp!
 - 認定特定非営利活動法人 UNE
 - 山古志角突き女子部
 - チャレンジライフ
 - 株式会社 大光銀行
- 市民活動・虎の巻
 - 『地域のニーズから市民活動を生む方法』
- 私たちは〇〇ができます!
 - ながおか医療生協 フィットネスレインボー

毎週月曜日17時頃から放送中!
つながるラジオ
FMながおか 80.7MHz
ながおかの市民活動紹介番組
放送時間 10分程度
第5月曜日を除く

ながおかの市民協働のポータルサイト
コライト、見ないと!
https://nkyod.org
協働センターのホームページ「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。
らこらまのバックナンバーも閲覧できます。

地域をよくするウワサのあの人にインタビュー！
活動に込める気持ち、これまでのいきさつ、組織での役割……。根掘り葉掘りお聞きしました。



渡辺 尚子さん (39歳)
書道家/ミニバスケットボールコーチ、Picking Up Mind
1979年長岡市生まれ。小学生から書道とバスケットボールに励む。書を販売しながらのバックパッカー経験を経て2011年帰郷。



●学生時代に最初に訪問し、今でも思い出が強いカンボジア。このバックパッカー時代の経験が、活動の信念に繋がっています。

スティックすぎた自分からの脱却で見た大切なこと 自分の心に素直に生きるススメ

小さい頃から書道とバスケットボールに打ち込んできた渡辺尚子さん。今は人を見て言葉をしたためることを得意とするヒーリング書道家の傍ら、ミニバスケットボールチームの指導者として子どもたちと向き合い、日々のワクワク感を大切にしています。

威圧的で厳しかった指導に耐えた学生時代と、決められたことしか教えられない教員時代に感じた違和感から、「何事もしなきゃいけない」からワクワクは生まれないと気づきました。そのためミニバス指導でも、メリットもデメリットも伝えて子どもたちに練習方針を選ばせています。「自分で選ぶ力を子どものうちから身につけてほしいし、選択ひとつでワクワク感が生まれます。選択後の結果よりも、自ら選ぶ行為そのものが大切だと伝えたいです」。そのため、大人の悩み苦しむ姿も隠さず

全部見せたいと言います。「大人も選んだ先でうまくいかないこともたくさんあります。それを『そんなの当たり前!』ってポジティブに言える人でいたいと思っています」。

大学時代から意識せずしていたというゴミ拾いも継続中。仕事でスランプを感じていた頃に、市内各所で行われているごみ拾い活動『Picking Up Mind』を知り、個人的にも毎月末にランニングしながら活動に取り組んでいます。しかし、決して無理はしません。「自分の心に素直に、できない日はそんな自分を受け入れます。その日の自分に素直に生きたいです」。スティックすぎた学生時代があったからこそ、今があるという渡辺さん。市民活動においても「やらなきゃいけない」と無理をするよりも、「素直にわくわくすること」をみんなが実践できるといいのかもしれない。

やりながら考える。兄弟二人三脚で 長岡に生み出す、子どもたちの居場所

小中高生を対象に、放課後の学びや不登校生徒の学習支援を行う「特定非営利活動法人 学びスペースあうるの森」。運営するのは兄の山田竹紘さんと弟の古口紘基さん兄弟です。

学生時代から教育環境を研究してきた山田さんは、不登校の生徒が学校以外でも学力や社会性を身につけられる選択肢を増やそうと、自ら事業立ち上げを決意。26歳の時にUターンすると、とにかくチャレンジしてみようと古口さんを誘い、2013年にあうるの森を始めました。当初ひと桁だった生徒数は、教育委員会との連携やメディア掲載が増えたことで、現在は25名になっています。

これまで山田さんが事業を通して大切にしてきたことは、生徒に成功体験の機会をつくること。「近隣の幼稚園でのボランティアや英検などの検定試験、そして演劇などにチャレン

ジしています。できることを増やして自信を付けてほしいんです。代表として、事業の舵取りを担う山田さんに対し、古口さんは前職に介護職を選ぶだけあって世話好きで、親身に生徒に寄り添うような存在。「生徒との会話の中で出た要望をもとに、月1回のイベント企画や演劇発表を実現してきました。生徒が喜ぶ姿にやりがいを感じています」。二人はそれぞれの特性を活かしながら生徒と向き合ってきました。

「生徒の多くは不登校であることに後ろめたさを感じつつも、ここに来ると学校で感じた違和感や受け止めきれなかった出来事を、鉄板ネタとして披露し笑い合っている」と山田さん。それぞれの違いを肯定しながら、これからも子どもたちが安心して集い、成長していける場を広げていきたいと二人は語っていました。



山田 竹紘さん (上/33歳)
古口 紘基さん (下/31歳)
フリースクール運営・講師/
特定非営利活動法人 学びスペースあうるの森
1986年と1988年生まれのお兄弟。2013年にあうるの森スタート。民間フリースクールとして市内外から生徒が通っている。



●生徒発案で行った演劇は、脚本、衣装、ステージセット全て生徒たちの手作り。昨年11月の発表会ではハプニングもみんなで乗り越え、見事にやりました。

活動PickUp!

認定特定非営利活動法人 UNE

栃尾

ごちゃまぜ福祉で小規模多機能自治



栃尾地域の一之貝集落で、農園芸を通じた福祉活動をしています。障がい者のしごと起こし、高齢者の生き甲斐づくり、生活困窮者の居場所づくりを目的に事業を展開。農作業、農家レストラン、農家民宿、どぶろく・クロモジ茶の生産など多岐にわたります。将来は、障がい者福祉施設を立ち上げ、より多くの障がい者や生活困窮者が集えるような環境を作り、大勢の人達と一緒に集落の維持存続をしたいです。

生の声は「ラジオ」「コライト」で！
「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

チャレンジライフ

長岡

農薬や化学肥料を使わないエコ農法を推進



安全・安心でおいしい野菜づくりを普及させるとともに、有機農産物の情報発信、有機農業への理解を図るための野菜づくり講座や、次世代を担う子どもたちに食べてもらうため、2018年5月より藤橋「みんなの体験農園」を運営。今後は、保育園や学校への出前講座や、高齢者の健康と生きがい作り、障がい者等の自立支援、休耕地・耕作放棄地を活用した安心で美味しい野菜づくり展開していきます。

山古志角突き女子部

山古志

女子目線で牛の角突きをPR



山古志の「牛の角突き」をPRする女性応援団「山古志角突き女子部」は、2017年に設立し、闘牛場で販売するお土産グッズの作成やイベントの企画、県内外の部員が集まる交流会などを行っています。牛持ちの女性や山古志闘牛会の家族、角突きファンの女性など約60名のメンバーがおり、小学生～70代まで多世代で活動中。今後は新たなPR方法も考えつつ、いつか牛を観ながらゆっくりできる場を作れたらいいなと思っています。

株式会社 大光銀行

長岡市内

地域とあゆむ「銀行さん」でありたい



長岡市に本店を置く株式会社大光銀行は、1942年創業の地域銀行です。地域密着をモットーとし、創業70周年記念事業の一環として、地域への恩返しの意味を込めて「1店舗1貢献運動」を始めました。各店舗の地域事情やニーズに合わせ、清掃活動や地域行事に参加するなどのボランティア活動を行っています。これからも地域社会の一員として、地域のために出来ることを継続していきます。

みんなの声 投稿 随時募集中

投稿テーマ 「これも協働!?」暮らしの中で感じた人とのつながり

投稿方法
 投稿フォームを使う
 協働センター窓口で投稿する

QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。
 協働センター窓口を設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。

投稿者
メロンちゃんさん

投稿者
みなぼんさん

早朝のウォーキングをしながらゴミ拾いを始めました。やり方は簡単なもので、スーパーの袋とトンガを持ち歩くだけ。約束として、目についたゴミを拾うこと。危険なところにあるようなゴミは無理して拾わないこと。これが長く続く秘訣のような気がします。ゴミ拾いウォーキングのお陰で気持ちよく1日がスタートします!!!

この春、アパートのお隣に留学生が引っ越してきました。よく顔を合わせるようになって以来、自分から笑顔で話しかけていくこと、「困ったことがあったら頼ってね」とオープンな態度で接することを心がけています。この間、中国の美味しいお菓子をもらいました。お返しに笹団子をあげました。ちょっとした文化交流です(笑)